

都市再生整備計画 事後評価シート
矢田地区

平成29年2月

愛知県西尾市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	西尾市	地区名	矢田地区			面積	340ha				
交付期間	平成24年度～平成28年度		事後評価実施時期	平成28年度		交付対象事業費	654.1百万円	国費率	0.4				
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園：羽塚西公園、矢田公園、羽塚公園 高次都市施設(地域交流センター)：矢田ふれあいセンター 土地区画整理事業：西尾羽塚西土地区画整理事業										
		提案事業	地域創造支援事業：耐震性貯水槽 まちづくり活動推進事業：公園ワークショップ										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
		提案事業	-		-		-						
	新たに追加した事業	基幹事業	-		-		-						
		提案事業	-		-		-						
交付期間の変更	当初	平成24年度～平成28年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
	変更	-											
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	地域交流施設の利用人数	人/年	3,942	H24	40,000	H28		39,277	△	あり なし	● 計画期間内での目標達成には若干及ばなかったが、ふれあいセンターの新設や整備区域内の土地区画整理事業などの進展に伴い、区域内人口の増加が進んだことにより、施設の利用者が増加した。	H29.7
	指標2	1人当りの公園等面積	m ² /人	0.253	H24	1.0	H28		1,039	○	あり なし	● 既存の公園等に加え、公園ワークショップなど地域住民の意見も取り入れながら、公園整備も順調に進み、1人当りの公園等面積が増加した。	H29.4
指標3	整備区域内の居住者人口	人	10,730	H24	12,000	H28		12,230	○	あり なし	● 土地区画整理事業や下水道整備などの基盤整備の進展や、公園、ふれあいセンターなどの魅力ある交流機能が整備されることにより、区域内全体の住環境が向上し、人口増加につながった。	H29.4	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1												
	その他の数値指標2												
その他の数値指標3													
4) 定性的な効果発現状況	・公園やふれあいセンターなど、交流施設が増えることにより、住民同士の交流の機会も増え、防災・防犯への対応力の強化にもつながっている。 ・公園ワークショップなどを通じ、自分たちで考えた自分たちの公園としての意識が高まり、住民による維持管理体制についての理解が深まった。												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況						今後の対応方針等			
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

矢田地区(愛知県西尾市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 人と人のふれあいの中で、安心・快適に暮らせるまちづくり 目標1: 住民相互の交流を強化し、ふれあいのあるまちづくりを目指す。 目標2: 防災・防犯への対応力を強化し、安心できるまちづくりを目指す。 目標3: 基盤整備を推進し、良好な住環境整備によるまちづくりを目指す。	地域交流施設の利用人数	単位: 人/年	3,942	H24	40,000	H28	39,277	H28
	1人当りの公園等面積	単位: m ² /人	0.253	H24	1.0	H28	1.039	H28
	整備区域内の居住者人口	単位: 人	10,730	H24	12,000	H28	12,230	H28

羽塚公園(完成予想図)

羽塚西公園(完成予想図)

矢田公園

■基幹事業
土地区画整理事業
西尾羽塚西土地区画整理事業

○関連事業
西尾羽塚西土地区画整理事業

○関連事業
公共下水道事業

■基幹事業
公園
羽塚公園

■基幹事業
公園
羽塚西公園

■基幹事業
公園
矢田公園

□提案事業 地域創造支援事業
耐震性貯水槽

□提案事業 まちづくり活動推進事業
公園ワークショップ

■基幹事業
高次都市施設(地域交流センター)
矢田ふれあいセンター

西尾口駅
西尾駅
福地駅

凡例
■基幹事業
□提案事業
○関連事業

矢田ふれあいセンター

公園ワークショップ(矢田公園)

まちの課題の変化

- 耐震性貯水槽を備えた公園やふれあいセンターが整備されたことにより、住民同士の交流の場や、避難場所が確保された。
- 土地区画整理事業の進展により、狭隘道路などが解消され、避難経路の明確化や緊急車両の通行経路が確保された。一方で、整備区域全体では、既存集落において、狭隘道路が一部残るなど、防災上の課題が残されている。
- 土地区画整理事業の進展により、まとまりのある良好な居住環境が創出された。一方で、整備区域全体では、既存集落において、空き家や空き地などの増加による居住環境の悪化や無秩序なミニ開発などのリスクが高まる恐れがある。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 公園やふれあいセンターなどの交流機能を活用した、住民同士の交流の活発化を図るとともに、住民自らによる地域の安全・安心に向けた取組みを促進する。
- 地域住民による公園や道路などのまち美化活動を推進するなど、快適な居住環境の維持向上を図り、住民が愛着の持てるまちづくりを進める。
- 既存集落における狭隘道路を解消し、避難経路の明確化や緊急車両の通行経路の確保を図り、安全・安心な居住環境の創出を図る。
- 今後、増加が予想される空き家、空き地について、現状調査を行うとともに、適正な維持管理、利活用の方策を検討し、良好な居住環境の維持につなげる。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他()		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路									
公園	羽塚西公園	33	A=0.14ha	31	A=0.14ha	事業費の精査による	影響なし		●
公園	矢田公園	148	A=1.00ha	137.9	A=1.00ha	事業費の精査による	影響なし	●	
公園	羽塚公園	124	A=0.65ha	119.5	A=0.65ha	事業費の精査による	影響なし		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設									
高質空間形成施設									
高次都市施設 (地域交流センター)	矢田ふれあいセンター	254	A=890㎡	190.3	A=890㎡	事業費の精査による	影響なし	●	
既存建造物活用事業									
土地区画整理事業	西尾羽塚西土地区画整理事業	180	A=4.33ha	148.7	A=4.34ha	事業費の精査による	影響なし		●
市街地再開発事業									
住宅街区整備事業									
地区再開発事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
バリアフリー環 境整備促進事 業									
優良建築物等 整備事業									
住宅市街地総 合整備事業									
街なみ環境整 備事業									
住宅地区改良 事業等									
都心共同住宅 供給事業									
公営住宅等整 備									
都市再生住宅 等整備									
防災街区整備 事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	耐震性貯水槽	25	4箇所	24	4箇所	事業費の精査による	影響なし		●
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業	公園ワークショップ	3	3箇所	2.6	2箇所	地元からの要望で羽塚西公園につ いては、意見聴取のみとした。	ワークショップを行わなかった羽塚西公園についても、自治会長を 通じて地元の意見を聴取し、計画に反映させたため、影響なし。	●	

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無		
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	数値	事後評価	達成度	あり	なし			
指標1	地域交流施設の利用人数	人/年	—	—	3,942	H24	40,000	H28	モニタリング	—	—	モニタリング	—	—	●	—
									事後評価	確定	39,277	事後評価	△			
									見込み	●						
指標2	1人当りの公園等面積	㎡/人	—	—	0.253	H24	1.0	H28	モニタリング	—	—	モニタリング	—	—	●	—
									事後評価	確定	1,039	事後評価	○			
									見込み	●						
指標3	整備区域内の居住者人口	人	—	—	10,730	H24	12,000	H28	モニタリング	—	—	モニタリング	—	—	●	—
									事後評価	確定	12,230	事後評価	○			
									見込み	●						

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	計画期間内での目標達成には若干及ばなかったが、ふれあいセンターの新設や整備区域内の土地区画整理事業などの進展に伴い、区域内人口の増加が進んだことにより、施設の利用者が増加した。	
指標2	既存の公園等に加え、公園ワークショップなど地域住民の意見も取り入れながら、公園整備も順調に進み、1人当りの公園等面積が増加した。	
指標3	土地区画整理事業や下水道整備などの基盤整備の進展や、公園、ふれあいセンターなどの魅力ある交流機能が整備されることにより、区域内全体の住環境が向上し、人口増加につながった。	

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指 標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	モニタリング	事後評価	事後評価		
その他の 数値指標1							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標2							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		
その他の 数値指標3							モニタリング				
							事後評価	確定	見込み		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・公園やふれあいセンターなど、交流施設が増えることにより、住民同士の交流の機会も増え、防災・防犯への対応力の強化にもつながっている。
- ・公園ワークショップなどを通じ、自分たちで考えた自分たちの公園としての意識が高まり、住民による維持管理体制についての理解が深まった。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名・組織の概要	
なし	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
関連各課ヒアリング	都市計画課、公園緑地課、生涯学習課、スポーツ課、危機管理課、消防本部	平成28年9月9日(金)～9月23日(金)	都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種類別		指標1		指標2		指標3			
指標名		地域交流施設の利用人数		1人当りの公園等面積		整備区域内の居住者人口			
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	【公園】羽塚西公園	—	計画期間内での目標達成には若干及ばなかったが、ふれあいセンターの新設や整備区域内の土地区画整理事業などの進展に伴い、区域内人口の増加が進んだことにより、施設の利用者が増加した。	◎	既存の公園等に加え、公園ワークショップなど地域住民の意見も取り入れながら、公園整備も順調に進み、1人当りの公園等面積が増加した。	○	土地区画整理事業や下水道整備などの基盤整備の進展や、公園、ふれあいセンターなどの魅力ある交流機能が整備されることにより、区域内全体の住環境が向上し、人口増加につながった。		
	【公園】矢田公園	—		◎					
	【公園】羽塚公園	—		◎					
	【高次都市施設(地域交流センター)】矢田ふれあいセンター	◎		—					
	【土地区画整理事業】西尾市羽塚西土地区画整理事業	○		○					
提案事業	【地域創造支援事業】耐震性貯水槽	—		—		○			
	【まちづくり活動推進事業】公園ワークショップ	—		◎		—			
関連事業	【土地区画整理事業】西尾市羽塚西土地区画整理事業	○		○		◎			
	【公共下水道事業】西尾地区	—		—		○			

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後は、さらなる利用者数の増加を図るため、講座などソフトの充実など施設の魅力維持向上に努める必要がある。	公園ワークショップにおける住民参加の経験を活かし、今後は、公園の維持管理への住民参加を促し、自分たちの公園としての意識向上に努める必要がある。	今後は、住民同士の交流の促進や街の美観の維持など、魅力あるまちづくりを進め、安心して暮らすことのできる居住環境の維持向上を図る必要がある。
-------	--	---	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別													
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)			
------------------	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
関連各課ヒアリング	都市計画課、公園緑地課、生涯学習課、スポーツ課、危機管理課、消防本部	平成28年9月9日(金)～9月23日(金)	都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
地域住民が交流しあえる場所や災害時の避難先が不足していることから地域交流センターや公園整備が急務である。	耐震性貯水槽を備えた公園やふれあいセンターが整備されたことにより、住民同士の交流の場や、避難場所が確保された。	なし	なし
既成市街地では消防水利及び道路整備の遅れから消防活動困難区域も見られる。都市計画道路等の整備によりこの改善と地震時等災害の避難経路の確保を図ることが急務である。	土地区画整理事業の進展により、狭隘道路などが解消され、避難経路の明確化や緊急車両の通行経路が確保された。	整備区域全体では、既存集落において、狭隘道路が一部残るなど、防災上の課題が残されている。	
羽塚西地区はミニ開発などによる無秩序な市街化が進んでおり、公共施設の整備改善を伴った土地区画整理事業による良好な市街地整備が急務とされている。	土地区画整理事業の進展により、まとまりのある良好な居住環境が創出された。	整備区域全体では、既存集落において、空き家や空き地などの増加による居住環境の悪化や無秩序なミニ開発などのリスクが高まる恐れがある。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	住民同士の交流の促進	公園やふれあいセンターなどの交流機能を活用した、住民同士の交流の活発化を図るとともに、住民自らによる地域の安全・安心に向けた取組みを促進する。	・地域のまつりなど既存イベントのブラッシュアップ ・地域住民の自主的な防犯・防災活動などのコミュニティ支援事業 ・地域住民によるまち美化活動などを支援する事業
	居住環境の更なる向上	地域住民による公園や道路などのまち美化活動を推進するなど、快適な居住環境の維持向上を図り、住民が愛着の持てるまちづくりを進める。	・地域住民によるまち美化活動などを支援する事業

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	狭隘道路の解消	既存集落における狭隘道路を解消し、避難経路の明確化や緊急車両の通行経路の確保を図り、安全・安心な居住環境の創出を図る。	・道路等基盤整備事業
	空き家・空き地の適正な管理、利活用	今後、増加が予想される空き家、空き地について、現状調査を行うとともに、適正な維持管理、利活用の方策を検討し、良好な居住環境の維持につなげる。	・住環境向上事業 ・空き家・空き地活用事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
—	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

なし

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
 ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	地域交流施設の 利用人数	人/年	3,942	H24	40,000	H28	確定	●	39,277	△	あり ●	H29.7	評価基準日(平成29年3月31日)における矢田小学校及び矢田ふれあいセンターの利用者数が平成29年7月1日に確定することから、それにより確定値とする。	
							見込み							
指標2	1人当りの公園等 面積	㎡/人	0.253	H24	1.0	H28	確定	●	1.039	○	あり ●	H29.4	平成29年3月末に工事が完了するため、平成29年4月1日の人口を用いて評価基準日(平成29年3月31日)から1ヶ月が経過した平成29年5月1日時点の1人当り公園面積を確定値とする。	
							見込み							
指標3	整備区域内の居 住者人口	人	10,730	H24	12,000	H28	確定	●	12,230	○	あり ●	H29.4	評価基準日(平成29年3月31日)における居住者人口が平成29年4月1日に確定することから、それにより確定値とする。	
							見込み							
その他の 数値指標1							確定				あり ●			
							見込み							
その他の 数値指標2							確定				あり ●			
							見込み							
その他の 数値指標3							確定				あり ●			
							見込み							

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	事後評価時点で完了していない事業もあったが、数値の予測などが的確であったことにより、事業効果が適切に評価することができた。	数値目標を設定する際には、地域の実情や社会情勢等を加味して、的確な数値を算出するよう心がける。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	まちづくりの目標に合致した事業が進められたことにより、数値目標をほぼ達成できた。	的確な数値目標の設定とともに、事業の進捗管理を着実にを行うよう心がける。
	うまくいかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	住民参加型の公園ワークショップを開催したことにより、地域住民の公園に対する愛着度を向上させることができた。	他地区においても、事業の整備にあたり住民参加を促進していく。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事後評価において、庁内検討会議等での意見を踏まえ、今後のまちづくりの方策を検討し、対象地区における今後の課題とまちづくりの方策を整理できた。	他地区においても、庁内検討会議やまちづくり評価委員会等を円滑に実施し、対象地区の良好なまちづくりを目指した事業評価を実施していく。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

なし

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のウェブサイトに掲載	平成28年11月1日 ～11月15日	平成28年11月1日 ～11月15日	担当課へ直接または郵送、FAX、電子メールのいずれかで提出	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	広報に掲載	平成28年11月1日 広報にしお11月1日号	平成28年11月1日 ～11月15日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	担当部署窓口での閲覧	平成28年11月1日 ～11月15日	平成28年11月1日 ～11月15日		

住民の意見	意見なし
-------	------

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	千頭 聡氏(日本福祉大学教授)	平成29年1月19日	都市計画課	西尾市都市再生整備計画事業評価委員会設置要綱	独自に設置
その他の委員	朝岡市郎氏(都市計画審議会委員) 稲垣雅春氏(矢田小学校区代表町内会長) 伊澤光二氏(矢田小学校区自主防災会連絡協議会副会長)				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・指標を定める際にどのような考えで決めたのかという意見をいただいた。 ⇒数値目標については、事業の進捗など事業成果を計るために設定しているが、もともとは対象地区に対する課題を解決するために定めた指標であり、この数値目標を達成することのみを目的としているのではなく、この数値目標が達成されることで、課題が解決できるかという視点で指標を定めたことを説明した。
	成果の評価	・指標3の人口が増加すると、指標2の1人当たりの公園等面積が減るという意見をいただいた。 ⇒現段階で1人当たりの公園等面積については、目標を1割程度上回っており、土地区画整理事業が全て完成した後の人口の伸びから推計しても目標を下回ることはないことを説明した。
	実施過程の評価	・実施過程については何も書かれていないが問題はないかという意見をいただいた。 ⇒都市再生整備計画作成時には位置づけを行わなかったが、実際には公園整備に際し、住民参加型のワークショップにより計画を策定するなど、住民参加のプロセスは実施したことを説明した。
	効果発現要因の整理	・指標1については、ソフト面において、ふれあいセンターの館長らの工夫もあり、利用者の増加につながったことを意見としていただいた。
	事後評価原案の公表の妥当性	・公表の仕方については、広報での周知のほか、ふれあいセンターに周知用の張り紙などの工夫もあるという意見をいただいた。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きについて、妥当に進められたことを確認した。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・改善策のうち、空き家・空き地の適正な管理・利活用について、地域住民としては、空き家などはあることはあるが、特に困ったということはありませんという意見をいただいた。 ・想定される事業について、実際に行うのかという意見をいただいた。 ⇒事業を行えば課題解決などに効果がありそうな事業を列記しているが、実際の事業化については、今後、地域住民の意見などを考慮しながら検討していきたい旨を説明した。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくりの方策について、妥当に検討が進められたことを確認した。
その他	・特になし	